



■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）

	するために必要な技能を身に付け、表している。	味わい深く捉えたりしている。	
--	------------------------	----------------	--

(改善等通知 別紙5 P.3, 4)

4 書道Ⅰの目標と評価の観点及びその趣旨

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のように育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
目標	書の表現の方法や形式, 多様性などについて幅広く理解するとともに, 書写能力の向上を図り, 書の伝統に基づき, 効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書によさや美しさを感じ, 意図に基づいて構想し表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み, 生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに, 感性を高め, 書の伝統と文化に親しみ, 書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指要領 P. 157)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の表現の方法や形式, 書表現の多様性について幅広く理解している。</li> <li>書写能力を向上させるとともに, 書の伝統に基づき, 作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け, 表している。</li> </ul>	書によさや美しさを感じ, 意図に基づいて構想し表現を工夫したり, 作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え, 書的美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」 P.86 を参考に作成

5 単元構成

「A表現」(2)「漢字の書」総時間数 32時間

単元① <楷書>書風と結構法 (孔子廟堂碑, 九成宮禮泉銘)	全4時間	【本単元】
単元② <楷書>書風と線質 (筆圧の変化) (雁塔聖教序, 顔氏家廟碑)	全4時間	
単元③ <楷書>書風と線質 (円筆・方筆) (牛橛造像記, 鄭義下碑)	全4時間	
単元④ <楷書>楷書の創作	全4時間	
単元⑤ <行書>行書の運筆の基本と書風 (蘭亭序, 風信帖)	全4時間	
単元⑥ <行書>行書の創作	全4時間	
単元⑦ <篆書>篆書の用筆法・運筆法 (泰山刻石)	全2時間	
単元⑧ 篆刻	全6時間	

6 単元の目標

※ここでは複合的な単元を例に示したため、「技能」を除く各資質・能力について、「A表現」「B鑑賞」それぞれに関する目標を設定している。また、学習指導要領の内容を本単元の学習に即した内容に置き換えたり、2項目を1項目にまとめたり、項目を扱う古典に応じて増

## ■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）

やしたりして単元の目標を作成することが考えられる。（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道） p 53～55 参照）

### (1) 「知識及び技能」

#### ○知識

- ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。（「A表現」に関する内容）
- ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解する。（「B鑑賞」に関する内容）

#### ○技能

※ここでは新しい評価の考え方に基づいて、二つの古典を一つの単元で扱う上で、双方の古典について評価を行うため、「技能」についてのみ「A表現」の目標を2項目としている。

- ・孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。（「A表現」に関する内容）
- ・九成宮醴泉銘に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。（「A表現」に関する内容）

### (2) 「思考力、判断力、表現力等」

- ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。（「A表現」に関する内容）
- ・作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。（「B鑑賞」に関する内容）

### (3) 「学びに向かう力、人間性等」

- ・孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風に即した表現の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。（「A表現」に関する内容）
- ・孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風に即した鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。（「B鑑賞」に関する内容）

## 7 内容のまとめりごとの評価規準

※ここでは複合的な単元を例に示したが、「A表現」または「B鑑賞」のどちらか一方のみで単元を設定することも考えられる。

「A表現」(2)漢字の書 及び「共通事項」(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[共通事項] ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。 ・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。	・古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。	主体的に漢字の書の幅広い表現の学習に取り組もうとしている。
・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。 ・古典の線質・字形や構成を生かした表現の技法を身に付け		

■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）

ている。		
------	--	--

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.87を参考に作成

「B鑑賞」(1)鑑賞 及び 「共通事項」(1)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〔共通事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。</li> <li>・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。</li> <li>・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。</li> <li>・漢字の書体の変遷，仮名の成立等について理解している。</li> <li>・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。</li> <li>・生活や社会における書の効用について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。</li> </ul>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>主体的に幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。</p>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」P.88を参考に作成

8 単元の評価規準

※ここでは複合的な単元を例に示したため、「技能」を除く各観点について、「A表現」「B鑑賞」それぞれに関する目標を設定している。

※また、新しい学習評価の考え方に基づいて、例えば二つの古典を一つの単元で扱う際、「技能」についてのみ、古典ごとに記録に残す評価が可能となるよう、ここでは古典ごとの評価規準を設定した。また、学習指導要領の内容を本単元の学習に即した内容に置き換えたり、2項目を1項目にまとめたり、項目を扱う古典に応じて増やしたりして作成することも考えられる。（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）p53～55参照）

(1)知識・技能

○知識

- ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。(知表)
- ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。(知鑑)

○技能

- ・孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。(技)
- ・九成宮禮泉銘に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。(技)

(2)思考・判断・表現

- ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫している。(思表)
- ・作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。(思鑑)

(3)主体的に学習に取り組む態度

■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）


- ・孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風に即した表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。  
（態表）
- ・九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の書風に即した鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。  
（態鑑）

9 単元の指導と評価の計画

・年間授業時数・・・ 70 時間 ・「漢字の書」・・・32 時間 ・本単元の配当時間・・・ 4 時間

(1) 指導と評価の計画（概要）

単元	時間	学習活動	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
			知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑
「漢字の書」単元①	第1次 (2時間) (本時は2時間目)	鑑賞①（孔子廟堂碑）							◎
		観点の確認①（書を構成する要素）	◎						
		構想・工夫①							
		作品制作①			◎				
		相互鑑賞・意見交換①					◎		
		構想・工夫の見直し①					◎		
		作品制作②			◎				
		相互鑑賞・意見交換②					◎		
		自己評価①							◎
		学習のまとめ①							◎
		◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	第2次 (2時間)	鑑賞②（九成宮醴泉銘）							◎
		観点の確認②（書を構成する要素）	●						
		構想・工夫②							
		作品制作③			◎				
		相互鑑賞・意見交換③					◎		
		構想・工夫の見直し②					●		
		作品制作④			◎				
		相互鑑賞・意見交換④					●		
		自己評価②							◎
		学習のまとめ②							◎
		単元の学習のまとめ							◎
◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価	●	●	◎	◎	◎	●	◎		

※ 「」は評価場面の連続性を示す。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」 P.58 を参考に作成

■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）

※ここでは学習活動を「A表現」と「B鑑賞」とに区別して評価の計画を示しているが、これはあくまでも例であり、必ずしも明確に区別する必要はなく、各学習活動において「A表現」「B鑑賞」のどちらとして評価するか、また、どの資質・能力について評価するかについては、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して授業者が決めることになる。

（２）単元における観点別学習状況の評価方法

※ここでは○「おおむね満足できる」状況(B)、◎「十分満足できる」状況(A)、◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立てを示しているが、これはあくまでも例であり、必ずしもこの評価方法で評価しなくてはならないわけではなく、評価方法については、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して各都道府県の様式に従って作成することになる。

評価の観点と単元の評価規準		○「おおむね満足できる」状況(B)の例 ◎「十分満足できる」状況(A)の例 ◆「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への手立て
知識・技能	知表	<ul style="list-style-type: none"> <li>○書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。</li> <li>◎書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、構想・工夫したり意見交換で言語化したりする活動を通して実感的に理解している。</li> <li>◆書体や書風と用筆・運筆との関わりについて、ICTを活用して具体例を示すなどして実感的に理解できるよう支援する。</li> </ul>
	知鑑	<ul style="list-style-type: none"> <li>○線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて、おおむね理解している。</li> <li>◎線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて、相互鑑賞・意見交換したり言語化したりする活動を通して実感的に感受し、理解している。</li> <li>◆線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて、ICTを活用して具体例を示すなどして実感的に味わい理解できるよう支援する。</li> </ul>
	技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。</li> <li>◎孔子廟堂碑に基づく基本的な用筆・運筆の表現の技能を身に付け、表現性・表現効果等を生かして効果的に表現を工夫する中で、技能を更に高めている。</li> <li>◆学習活動を振り返らせたり、ICTを活用して動画や画像を再度確認させたりして、表現の技能を実感的に捉え表すことができるよう支援する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○九成宮禮泉銘に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。</li> <li>◎九成宮禮泉銘に基づく基本的な用筆・運筆の表現の技能を身に付け、表現性・表現効果等を生かして効果的に表現を工夫する中で、技能を更に高めている。</li> <li>◆学習活動を振り返らせたり、ICTを活用して動画や画像を再度確認させたりして、表現の技能を実感的に捉え表すことができるよう支援する。</li> </ul>
思考・判	<ul style="list-style-type: none"> <li>○古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫し</li> <li>◎古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成</li> </ul>	

■全高書研公開用 事例①（書道 I）

断・表現		ている。	について、深く考えて構想・工夫し、知識を活用して自身の考えを適切に言語化している。 ◆意見交換で他者の捉え方や考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、構想・工夫とその見直し、再構築に取り組めるよう支援する。
	思鑑	・作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさを味わって捉えている。	○作品の価値とその根拠について考え、書の高さや美しさをおおむね味わって捉え、自身の考えを言語化している。 ◎作品の価値とその根拠について自らの生活と関わらせて考え、書の高さや美しさを深く味わって捉え、自らの考えを適切に言語化している。 ◆意見交換で他者の捉え方や考え方を参考にしたり、これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し、書の高さや美しさを捉える活動に取り組めるよう支援する。
主体的に学習に取り組む態度	態表	・孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風に即した表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	○孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風に即した表現の学習活動に粘り強く取り組もうとしている。 ◎孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風に即した表現の学習活動に、計画的に自らの学習を調整しながら主体的に粘り強く取り組もうとしている。 ◆学習した孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風や表現効果、自身の取組の経緯を振り返らせ、既得の知識と技能を生かして、孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風に即して表現を工夫して主体的に表現の学習活動に臨めるよう支援する。
	態鑑	・九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑の書風に即した鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	○孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風に即した鑑賞の学習活動に粘り強く取り組もうとしている。 ◎孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風に即した鑑賞の学習活動に主体的に粘り強く取り組むとともに、生活や社会との関わりや自身の人生とも関わらせて広い視野から書を捉えて深く考えようとしている。 ◆学習した孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風や表現効果、自身の取組の経緯、相互鑑賞・意見交換での他者の捉え方や考え方を振り返らせ、孔子廟堂碑と九成宮醴泉銘の書風及び自他の作品の高さや美しさを感じ、主体的に鑑賞の学習活動に臨めるよう支援する。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」 P. 61～63 を参考に作成

(3) 観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法（評価対象と学習活動）

※ここでは観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法を示しているが、これはあくまでも例であり、必ずしもこの通りの方法で見取らなくてはならないわけではなく、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して授業者が決めることになる。

ア「知識・技能」

(ア) 知識

【知表】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子 等  
（学習活動）「観点の確認」「構想・工夫の見直し」

【知鑑】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子 等  
（学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「自己評価」「学習のまとめ」

(イ) 技能

【技】・・・（評価対象）作品 等  
（学習活動）「作品制作」

イ「思考・判断・表現」

【思表】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子 等  
（学習活動）「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」

■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）

【思鑑】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子 等  
 （学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「自己評価」

ウ「主体的に学習に取り組む態度」

【態表】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子 等  
 （学習活動）「観点の確認」「構想・工夫」「作品制作」  
 「構想・工夫の見直し」

【態鑑】・・・（評価対象）ワークシート、活動の様子 等  
 （学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「自己評価」「学習のまとめ」  
 「単元の学習のまとめ」

『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料』P.56、57 およびP.59、60 を参考に作成

（4）本時における学習過程と評価の具体

※ここでは学習計画（例）の指導上の留意点に生徒への支援例を示しているが、これはあくまでも例であり、必ずしもこの通り記述しなければならないわけではなく、各都道府県等で確認した内容を記述することになる。

※本事例では評価の方法に「観」や「ワ」のみの記述で●や◎を付さない箇所があるが、これはその学習活動に関連する評価場面として付したもので、必ずしも評価しなければならないわけではなく、実際に学習計画を作成する場合、「観」や「ワ」の記述や、●や◎の観点や評価については、授業内容や授業展開、生徒の学習状況等を考慮して授業者が決めることになる。

単元①「楷書の書風と結構法」第1次（2時間）の学習計画【本時はその2時間目】

活動の流れ	時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点	評価の方法							
				◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価 「観」活動の様子 「ワ」ワークシート 「作」作品							
				知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑					
導入	15分	○鑑賞① ・古典のよさや美しさを直感的に感受し、既習の知識・観点を生かして書風の特徴を捉え、ワークシートに記入する。 ・孔子廟堂碑の歴史的背景やその価値を理解する。	・他の古典の拡大画像を活用するなどし、初見の古典に対しても、それぞれに見方・考え方を働かせながら直感的な鑑賞に臨めるよう支援する。（ICTの活用）		観			ワ			ワ◎
		○観点の確認① ・既習の観点を確認し、新たな観点を理解する。 ◎書を構成する要素（線質・字形・構成等）を踏まえて、孔子廟堂碑の書風の特徴を捉え、考える。 ・構成のうち、特に結構法の観点（向勢及びその特徴に基づく点画の形状	・拡大画像を提示して線質の特徴をわかりやすく提示したり、他の古典の画像を提示して書風を比較したりして、孔子廟堂碑の書風の特徴を大きな視点で捉え、その表現効果について考えられるよう支援する。（ICTの活用）	ワ◎					観		



■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）

展開	75分	等) から孔子廟堂碑の書風の特徴を捉え、その表現効果について考え、ワークシートに記入する。 (ペアワーク)						
		<p>○構想・工夫①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想、その実現のための表現の工夫について観点の確認で身に付けた知識や観点等を生かして考え、ワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入で直感的に捉え感じ取った古典の書風とその表現効果を踏まえながら、新たに習得した知識や観点を活用して構想・工夫に取り組めるよう支援する。</li> </ul>			ワ ◎	観	
		<p>○作品制作①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想、その実現のために表現を工夫して作品を表す。(半紙2字)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の書風を、字形や点画の形状等の視点からのみ捉えるのではなく、運筆(書における運動性)の視点からも捉えられるよう働きかけるとともに、示範動画を活用するなどの働きかけをして、表現活動を通して用具・用材の特徴と古典の書風及びその表現効果との関わりについても実感的に理解できるよう支援する。 (ICTの活用)</li> <li>適宜、示範動画を確認させ、自身の運筆動画を撮影して、構想・工夫の実現状況を自ら調整しながら制作に取り組めるよう支援する。(ICTの活用)</li> </ul>		作 ◎		観	
<p>○相互鑑賞・意見交換①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見方・考え方を働かせて、他者との作品の共有・相互鑑賞を行い、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫等について相互に考えを伝え合うことで、新たな感じ方や捉え方、考え方に触れ、それぞれが自身の感じ方や捉え方、考え方を捉え直し、活用すべき他者の考えを適切な用語を用い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の作品や意見を認め合い、尊重する姿勢で活動するよう留意させる。</li> <li>意見交換においては、それぞれの感じ方や捉え方、考え方を伝え合い、互いに他者の考え方を尊重しながら、自身の感じ方や捉え方、考え方を広げられるよう働きかけ支援する。</li> <li>書のよさや美しさ、作品の意味や価値についても、段階的に考えられる</li> </ul>		ワ	ワ ◎	観			

■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）

	<p>て言語化し、ワークシートに記入する。 (ペアまたはグループ)</p>	<p>よう支援する。 ・古典の書風の特徴を捉えられていない生徒に対しては、古典の書風の特徴と用筆・運筆との関係を再度確認させ、用筆・運筆から生み出される表現性と古典の書風の特徴との関係を実感的に理解できるように支援する。その際、他の古典と書風の特徴を比較して捉えられるよう、画像等を活用して、用筆・運筆と古典の表現効果との関係に気付くよう支援する。(ICTの活用)</p>				
	<p>○構想・工夫の見直し① ・相互鑑賞・意見交換を通して広げた見方・考え方を働かせ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図、意図に基づく構想、その実現のための表現の工夫を見直し、必要な修正と新たな課題を確認し、ワークシートに記入する。</p>	<p>・示範動画と自身の運筆動画を比較するなどして、広げた見方・考え方を働かせながら、知識を活用して古典の書風の特徴を分析的に捉えることで、用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関係について、実感的に理解できるように支援する。 (ICTの活用) ・他者の意見の活用の仕方や、それを生かした構想・工夫の見直しの手順がスムーズに行えない場合には、活用の仕方を例示するなどして、段階的に必要な支援を行う。</p>	観	ワ ◎	観	
	<p>○作品制作②（清書） ・構想・工夫の見直しを踏まえ、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図及びそれに基づく構想、その実現のために表現を工夫して作品を表す。</p>	<p>・見直した構想・工夫に基づき、表現を工夫するために、示範動画（や自身の運筆動画）を確認させるなどし、構想の実現に向けた表現活動に取り組めるよう支援する。(ICTの活用)</p>		作 ●	観 ◎	
	<p>○相互鑑賞・意見交換② ・見方・考え方を働かせて、孔子廟堂碑の清書作品の共有・相互鑑賞を行い、孔子廟堂碑の書風に即した表現の意図に基づ</p>	<p>・作品の一斉掲示による共有（大画面での共有、個々のタブレットでの共有等）により、より多くの他者との相互鑑賞・意</p>	ワ	ワ ◎	ワ	ワ

■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）

		く構想の実現状況や、その実現のための表現の工夫の成果等について相互に考えを伝え合い、それぞれが自身の感じ方や捉え方、考え方を更に広げ、新たな考え等を適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。（グループまたはクラス全体で実施。）	見交換できる環境を用意し、自身の学習の成果を確認するとともに、それぞれに他者の学習の成果を認め合い、書のよさや美しさ、作品の意味や価値についても考えられるよう支援する。 （ICTの活用）						
		○自己評価① ・自身の制作と構想・工夫の過程を振り返り、作品の変化や表現の工夫の経緯、身に付けた知識と技能を改めて確認し、見方・考え方を働かせて、完成した作品（清書）とその制作過程について自己評価を行い、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。	・自身の学習過程の振り返りが、次時以降の学習への見通しに繋がられるよう働きかける。 ・自身の学習過程の振り返りとそれに対する自己評価を適切に行えない場合には、振り返りと自己評価の方法や観点について例示するなどして、今後の学習活動での振り返り、自己評価に繋がられるよう段階的に支援する。	ワ ◎		ワ			観
まとめ	10分	○学習のまとめ① ・本時の学習を振り返り、本時の学習内容、その中で併せて学習してきた〔共通事項〕の内容について改めて確認するとともに、作品の意味や価値、生活や社会の中で生かすことについて、主体的に考え、適切な用語を用いて言語化し、ワークシートに記入する。	・本時の学習を振り返らせ、本時の学習を通して習得した知識や技能、学習の中での思考・判断の過程、学習の中で働かせ広げた見方・考え方について改めて確認させることにより、自身の学習の成果を実感させるとともに、自他の表現した作品の意味や価値について主体的に考えたり、学習の成果を生活や社会の中で生かしていきたいと主体的に考えたりできるよう支援する。	ワ					ワ ◎
◎指導に生かす評価 ●記録に残す評価				◎	◎	◎	◎	◎	◎

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 P. 64～76 を参考に作成

■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）

10 年間指導計画

※ここでは指導事項を「A表現(1)」のように示すなどしているが、必ずしも本事例の通り示さなければならないわけではなく、各都道府県等で決めた様式で示すことになる。ここでの事例1・2では異なる書式で示している。

計 70 時間（内訳：漢字仮名交じりの書 20 時間 漢字の書 32 時間 仮名の書 12 時間 鑑賞 6 時間）

※鑑賞の時間数について、「A表現」との複合的な単元の時間数は含まれていない。

期	単元 学習内容	学習のねらい 学習活動 等	時 数	知識及び技能 (知識・技能)	思考力・判断 力・表現力等 (思考・判断・表 現)	学びに向かう 力・人間性等 (主体的に学習に 取り組む態度)
前期	1 オリエンテーシ ョン	○中学校国語科書写から高 等学校芸術科書道への接続 について理解する。【B鑑 賞】	36	B鑑賞(1) イ(イ)	B鑑賞(1) ア(ア), ア(イ)	B鑑賞(1)
	2 鑑賞① (手書き文字と 活字)	○手書き文字について学習 し、活字と手書き文字の特 徴について理解を深める。 【B鑑賞】		B鑑賞(1) イ(イ)	B鑑賞(1) ア(イ)	B鑑賞(1)
	3 漢字の書① (楷書の書風と 結構法)	○漢字の書について、楷書 の臨書や創作活動を通して 楷書の用筆・運筆と表現効 果について理解し書風に基 づく表現の技能を身に付け る。【A表現】【B鑑賞】		A表現(2) イ(ア), イ(イ) ウ(ア), ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア), イ(エ)	A表現(2) ア(ア), ア(イ)	A表現(2)
	4 漢字の書② (楷書の書風と 線質(筆圧の変 化))			B鑑賞(1) イ(ア), イ(エ)	B鑑賞(1) ア(ア), ア(イ)	B鑑賞(1)
	5 漢字の書③ (楷書の書風と 線質(円筆・方 筆))					
	6 漢字の書④ (楷書の創作)					
	7 仮名の書① (変体仮名)	○仮名の書の基本について 理解し、仮名の美の特徴で ある変体仮名や連綿につい て理解し仮名の表現の技能 を身に付ける。【A表現】 【B鑑賞】		A表現(3) イ(ア) ウ(ア) B鑑賞(1) イ(イ)	A表現(3) ア(ア)	A表現(3)
	8 仮名の書② (単体と連綿)				B鑑賞(1) ア(ア)	B鑑賞(1)
	9 漢字仮名交じり の書① (楷書の応用)	○漢字仮名交じりの書によ る作品制作を行い、漢字と 仮名の調和等について理解 し、漢字の書及び仮名の書 で身に付けた表現の技能を 深める。 【A表現】【B鑑賞】		A表現(1) イ(イ) ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア)	A表現(1) ア(ア), ア(イ)	A表現(1)
	10 漢字仮名交じり の書② (筆脈と字形)	○漢字の書の行書の導入と して、漢字仮名交じりの書 を半紙に速書きすることに より行書の特徴を理解し、 行書の基本的な表現の技能 を身に付ける。【A表現】 【B鑑賞】		A表現(1) イ(ア) ウ(ア) B鑑賞 イ(ア)	A表現(1) ア(イ)	A表現(1)
	11 漢字の書⑤ (行書の運筆の 基本と書風)	○漢字の書について、行書 の臨書や創作活動を通して 行書の特徴を理解し、行書 の表現の技能を身に付け る。【A表現】【B鑑賞】		A表現(2) イ(ア), イ(イ) ウ(ア), ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア), イ(イ) イ(エ)	A表現(2) ア(ア), ア(イ)	A表現(2)
	12 漢字の書⑥ (行書の創作)				B鑑賞(1) ア(ア), ア(イ)	B鑑賞(1)
後期	13 漢字仮名交じり の書③ (漢字の書の応 用)	○漢字の書の楷書と行書の 学習を生かして漢字仮名交 じりの書による作品制作を 行い漢字と仮名の調和等に ついて理解し、表現の技能 を高める。【A表現】【B鑑	34	A表現(1) イ(ア), イ(イ) ウ(ア), ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア)	A表現(1) ア(ア) ア(イ) B鑑賞(1) ア(ア)	A表現(1)  B鑑賞(1)

■全高書研公開用 事例①（書道Ⅰ）

	賞】				
14 鑑賞② (地域の石碑鑑賞)	○地域の石碑を鑑賞して漢字と仮名の調和や日常における書の効用、日本の文字と書の伝統と文化などについて理解を深める。【B鑑賞】		B鑑賞(1) イ(ア), イ(イ)	B鑑賞(1) ア(イ)	A表現(1)
15 仮名の書③ (散らし書き)	○仮名の書の臨書や創作を通して、仮名の美の特徴や連綿、散らし書きへの理解を深め、仮名の書の表現の技能を身に付ける。【A表現】【B鑑賞】		A表現(3) イ(イ), ウ(イ)	A表現(3) ア(イ)	A表現(3)
16 仮名の書④ (仮名の書の創作)			B鑑賞(1) イ(ア)	B鑑賞(1) ア(ア)	B鑑賞(1)
17 漢字仮名交じりの書④ (仮名の書を活用した作品制作)	○仮名の書の学習を生かして漢字仮名交じりの書による作品を制作し、漢字と仮名の調和等について理解を深め、仮名の表現の技能を高める。【A表現】【B鑑賞】		A表現(1) イ(イ) ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア)	A表現(1) ア(ア), ア(ウ)	A表現(1)
18 漢字の書⑦ (篆書の字形と筆法)	○漢字の書について、篆書の臨書を通して篆書体の字形や筆法の特徴等について理解し、篆書の表現の技能を身に付ける。【A表現】【B鑑賞】		A表現(2) イ(イ) ウ(ア) B鑑賞(1) イ(ウ)	A表現(2) ア(ア)	A表現(2)
19 漢字の書⑧ (篆刻作品制作)	○漢字の書の篆書の学習で身に付けた字形や線質の特徴を生かして、篆刻作品を制作し篆刻による書の表現について理解を深め、篆刻の表現の技能を身に付ける。【A表現】【B鑑賞】		A表現(2) イ(ア) ウ(イ) B鑑賞(1) イ(エ)	A表現(2) ア(イ) B鑑賞(1) ア(ア)	A表現(2)
20 漢字仮名交じりの書⑤ (作品制作・学習のまとめ)	○書道Ⅰのまとめとして、漢字仮名交じりの書による作品制作を行い、用筆・運筆による表現効果や全体構成、漢字と仮名の調和等について理解を深め、漢字仮名交じりの書の表現の技能を高める。【A表現】【B鑑賞】		A表現(1) イ(ア), イ(イ) ウ(ア), ウ(イ) B鑑賞(1) イ(ア)	A表現(1) ア(ア), ア(イ) ア(ウ) B鑑賞(1) ア(イ)	A表現(1) B鑑賞(1)

11 参考資料・参考文献等

- ・授業で使用する資料、関連データ等  
(ワークシート、ルーブリック、評価セッション・パフォーマンスシート、アンケート等の数的資料や分析データ 等)
- ・学習指導案を作成するに当たり、引用したり参考にしたりした資料等
  - ・高等学校学習指導要領，高等学校学習指導要領解説芸術編
  - ・小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）
  - ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道） 他